

# IRIS

広報アイリス

Vol.  
80

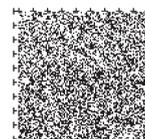
Mar.  
2025



シブヤフォントは、渋谷でくらし・はたらく障がいのある人の描いた文字や数字を、渋谷でまなぶ学生がフォントとしてデザインしたパブリックデータです。

## もくじ

- P1. インクルーシブシティセンターへ生まれ変わりました
- P3. 渋谷ジェンダー映画祭2024
- P5. 『ぼくたちの哲学教室』アフタートーク
- P8. ふらっとアイリス
- P9. アイリス講座
- P11. 対話のまちづくりコーディネーター講座
- P13. 東京レインボープライド・にじいろ読書カフェ
- P15. アイリスでできること



# <アイリス>は男女平等・ダイバーシティセンターから インクルーシブシティセンターへ生まれ変わりました

令和6年4月にアイリスは条例の改正に伴い、「渋谷男女平等・ダイバーシティセンター」から「渋谷インクルーシブシティセンター」に名称変更し、人権を尊重し差別をなくす社会を推進するための学習・活動・交流および情報提供の拠点となる施設に生まれ変わりました。

もともとは「渋谷女性センター」として生まれたアイリスですが、時代の流れとともに、名称や機能をアップデートしてきました。ここでアイリスのたどってきた歴史を振り返ってみましょう。

※センター名<アイリス>は渋谷区在住の方を対象とした公募により決定しました。アイリスとは渋谷区の花「ハナショウブ」の英語名です。

・渋谷区基本構想審議会で「婦人のための施設」の必要性が指摘される  
・第1回「婦人のつどい」開催  
(のちの「女性のつどい」)



1983年

「渋谷女性センター<アイリス>」  
開設！  
当時は全国婦人会館内で運営。



1992年

第1回「アイリスのつどい」開催  
テーマ：  
わたしとあなた～輝くとき  
(のちに女性のつどいと統合し、「渋谷フォーラム」に)



1993年

第1回コミュニティスペース  
「渋谷にける虹(しぶにじ)」開催



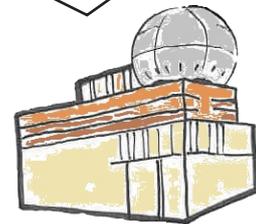
2016年

・「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」施行  
・「渋谷男女平等・ダイバーシティセンター」へ名称変更  
・「渋谷区パートナーシップ証明」開始



2015年

渋谷区文化総合センター大和田8階に移転



2010年

・第1回「渋谷ジェンダー映画祭」開催  
・ふらっとアイリス「読書会」「哲学カフェ」開始  
・「対話のまちづくりコーディネーター講座」開始



2022年

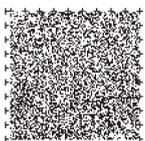
・「渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する条例」施行  
・「渋谷インクルーシブシティセンター」へ名称変更

2024年4月

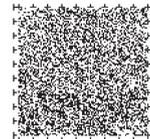
・ふらっとアイリス「おしゃべりハンドメイドたいむ」「マンガカフェ#しぶにじ」開始



条例改正の内容  
は次のページを  
チェック！



# 誰もが自分らしく安心して生きることができるまちを目指して、 条例を改正・制定しました



## 改正および制定理由・経緯

平成27年4月施行の「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」(旧条例)は、「男女平等と性的少数者の人権尊重」に比重が置かれ、区の多様性が「多様な性」と理解されることも多く、包括的な人権課題にも対応できる条例への見直しが求められていました。また、平成28年策定の渋谷区基本構想の価値観や未来像が反映されていないことも課題でした。

これら課題の解決に向け、「渋谷区男女平等・多様性社会推進会議」での審議・答申を受け、旧条例を「渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する条例」に改正し、区として全ての人の人権を尊重していく姿勢を明らかにするとともに、「渋谷区多様性を認め合う社会を推進する条例」を新たに制定し、渋谷区基本構想を踏まえた、区の目指すべき方向性や基本理念を示しました。

### 旧条例

男女平等

性的少数者の人権尊重

多様性社会推進

### 改正

全ての人の人権を尊重することを示す

渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する条例

#### ■基本理念

- ①誰もが自分らしい生き方を追求できること
- ②誰もが互いに個人として尊重すること
- ③誰もが互いに助け合うこと

#### ■区の責務

区は、人権を尊重し差別をなくす社会を推進する施策を総合的かつ計画的に実施し、渋谷民、事業者、国および他の地方公共団体その他関係団体と協働する。

#### ■渋谷民・事業者の責務

区が実施する人権を尊重し差別をなくす社会を推進する施策に協力するよう努める。

#### ■区が推進する施策

ジェンダー平等(パートナーシップは同性に限定しないように定義を変更)、子ども・高齢者・障がい者・本邦外出身者の人権を尊重する教育・啓発などの推進、本邦外出身者に対する不当な差別的言動の禁止

図 渋谷インクルーシブシティセンター(アイリス)

☎ 03-3464-3395 ☎ 03-3464-3398

※4月1日からセンターの名称が変更になります。

#### 渋谷民とは

区に住む人、区で働く人、区で学ぶ人、区を訪れる人など区に関わるさまざまな人を含む

### 制定

渋谷区基本構想を踏まえた区の目指すべき方向性や基本理念を示す

渋谷区多様性を認め合う社会を推進する条例

#### ■全文

渋谷のまちは、様々な個性を認め合う寛容性の高いまちであり、常に国内外から多様な人々が集い、その個性や行動は新たな文化や産業を創造し、世界に発信されるほどの影響を持つようになった。個性を認め合う自由で寛容な地域性は、まちの貴重な財産である。

渋谷区は、この財産を未来に向けて継承し、区に関わるあらゆる人々と共に、人種、国籍、信条、性のありよう、障害、年齢、出身地、経歴等の様々なちがいを認め合い、いかなる差別を受けることなく、社会、文化、経済その他のあらゆる分野で、誰もが個性を見出すことができるまちを目指していく。

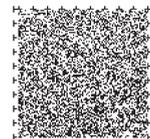
その実現に向け、あらゆる人々の様々な多様性を認め合い、人権を尊重し、誰もが等しく参加し、自分らしく安心して生きることができる社会を推進することを宣言する。

図 経営企画課経営企画係

☎ 03-3463-1191 ☎ 03-5458-4973

渋谷区ニュース2024年4月1日号より引用

条例全文は右のQRコードから



# 渋谷ジェンダー映画祭

…対話のある映画祭…

2024年度テーマ

関わること、対話すること、**聴**（ゆる）すこと



渋谷ジェンダー映画祭 HP

12月13日（金）～15日（日）の3日間、3回目となる渋谷ジェンダー映画祭を開催し、延べ286名の方にご参加いただきました。今回は「関わること、対話すること、聴（ゆる）すこと」をテーマに5作品を上映。映画を通じて、暴力が生まれない関わりを、暴力の代わりにする対話を、そして聴しについて考えました。



© PATHE PRODUCTIONS LIMITED, BRITISH BROADCASTING CORPORATION AND THE BRITISH FILM INSTITUTE 2014. ALL RIGHTS RESERVED. © 2023 Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved.  
© Soilsiu Films, Aisling Productions, Clin d'oeil films, Zadig Productions,MMXXI © 2020 7 ECCLES STREET LLC © 2022 Palouse Rights LLC. All Rights Reserved.

## オープニング作品『パレードへようこそ』



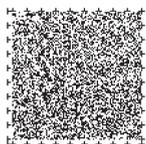
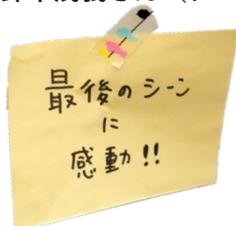
映画の途中で音声と映像がずれてしまうというハプニングが起こってしまいましたが、皆様のご理解とご協力があったおかげで、最後まで無事に上映することができました。トークセッションでは、理想を語るだけでなく「誰かを差別してしまう心は誰も持っているもの。それを受け止めたうえで、ちがいを持つ人とどのように共に生きていくか？」といった本音のトークが展開されました。また自分のケアに目を向けることの大切さを、マダム ボンジュール・ジャンジさんのハグ体操を通じて楽しく考えました。



ハグハグ～！



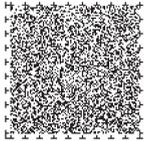
GUEST :  
マダム ボンジュール・ジャンジさん  
湯山玲子さん  
鈴木茂義さん (ナビゲーター)



# 『カラーパープル』

GUEST：柚木麻子さん、アーヤ藍さん（ナビゲーター）

徹底的な取材をすることで有名な柚木麻子さん。トークセッションではその鋭い観察力でアリス・ウォーカーの小説や1985年にスティーヴン・スピルバーグが制作した映画と本作を比較しながら、本作の魅力について深掘りしてくださいました。またこの映画の舞台設定となっている1900年と同じ頃の日本にも話は広がり、柚木さんの作品「らんたん」に描かれた日本の女性たちの物語についてもお話を伺うことができました。国や文化、社会背景や階級は違っていても、様々な自由を制限された女性たちが、自分らしく生きるための権利を求めて闘った歴史や、共通点について振り返りながら、フェミニズムやシスターフッドについても考えました。



真の強さとは何かを  
教えてくれました。  
ガールズパワーはらぬ  
レディースパワー最強!

# 『対峙』

GUEST：伊藤富士江さん、坂上香さん、ディアス実和子さん（ナビゲーター）



あまりの衝撃に、観終わった後呆然としてしまった人が続出。映画の余韻が残る中で始まったトークセッションでは、映画の中で描かれていた「修復的司法」や、日本で行われている「心情等伝達制度」について教えていただきました。また実際に修復的司法が行われているアメリカでの事例を通して、対話が被害者だけでなく、加害者の更生やコミュニティの回復をどのように助けているかなどリアルなお話も伺うことができました。対話には人を動かす力がある一方で、決して全てを解決できる魔法の様なものではないこと、被害者が再び傷つくことがないように、慎重さや入念な準備が必要とされていることなど、気づきと学びの多い時間となりました。

被害者の対応の必要性。  
加害者家族の必要性。  
いろいろ考えてもらえる時間です。

# 『ザ・ホエール』

GUEST：岸恵美子さん、ダースレイダーさん  
高橋ケンジさん（ナビゲーター）



主人公チャーリーの決断、選択は誠実さによるものか、はたまた自己中心的なものだったのか…観る人によって、感想が大きく分かれる映画だったということもあり、トークセッションでは映画の中で描かれた細かな描写の解釈で大いに盛り上がりました。その流れで出てきた、自己責任論や孤立・孤独の問題。近年チャーリーと同じように「助けて」ということができない人が増えてきていること、他者との関わりを拒絶しているように見える人にも、それぞれに物語があること、一人ひとりの声にじっくりと耳を傾けていくことの大切さを教えていただきました。「助けて」と言うには「助けて」と言った時に「助けてもらえた経験」が必要です。子どものころから誰かに頼ることが当たり前でできる環境を作っていくにはどうしたらいいのか考える機会となりました。

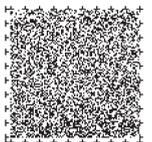
全の人が幸せに  
ファールがアランとの  
愛を貫かたのと格好  
悪いと見えた

## 渋谷ジェンダー平等推進アワード2024の表彰式を行いました

渋谷ジェンダー平等推進アワードは職場や学校、地域などの場で実践されているジェンダー平等に資する取組を募集し、渋谷区全体に発信する取組です。



令和6年度の受賞者は「聖心女子大学グローバル共生研究所と青山学院大学ジェンダー研究センターによる、大学間連携を通じたジェンダー平等・性の多様性理解促進」です。この二つの大学はキャンパス内にジェンダーやセクシュアリティの理解促進を行う拠点施設を持ち、大学独自の取組を行いつつ、互いの強みを生かし合う連携により、LGBTQフレンドリーでジェンダー平等なキャンパスの実現に向けて日々取組を行っています。居場所づくり事業を通じて新たな仲間、交流、知識を得ることができる点から、この取組はさらなる強化や発展の可能性を秘めています。



# 『ぼくたちの哲学教室』

渋谷ジェンダー映画祭のフィナーレを飾った作品『ぼくたちの哲学教室』。アフタートークは「対話の可能性を探る—暴力に頼らずに生きていくためのコミュニティー」と題し、対話や子どもたちに携わる4人のゲストにご登壇いただき、アーヤ藍さんのナビゲートでお話をお伺いしました。今回はそのトークの一部をお届けいたします。

先怒りに向ける言葉になる  
なぜ? 聴くための言葉なのに...

子どもたちはがんばっている  
→ 相談できる自分の声を出せる場がない

「正解はないけど、間違いはある」  
否定をしない場に子どもがいない  
→ 大人が待てない 聴く聴かれる場がない

いじめ 70万件  
→ いじめの定義が明確になり認知件数少

校内暴力 10万件近く  
→ 小学校で1番増えている  
番付は中1

校舎内暴力 10万件近く  
→ 小学校で1番増えている  
番付は中1

「ぼくたちは...」  
思っていることを言葉にするのが苦手

なぜを問う声を聴き合う

ISの女士  
あなたは最後まで聴いてくれた

みんな考えている! 問いはケア

哲学対話に大人も入らもう!

大人だからこの視点を入れる

「ほんまかいな」と思うことに挑戦してほしい

問いを大事に聴いてみる

どれくらいこの世界に貢献できたかな?

納得はどのくらいになる? 入学 卒業

企業 学校

子どもたちがもた疑問を探究できる教育に!

聞きまきること  
子どもたちが失敗してもいいようにほめる

哲学対話が  
先取り原理にかみとられ  
ないよう! 対話には修復性を!

「ぼくたちの哲学教室」

否定せず聴き協働し、導く

自分で答えを用意しない  
相手になりきる

島田久一さん  
アーヤ藍さん  
伊藤林太郎さん  
五十嵐力馬さん

聴くことの大切さ

会場: 渋谷インクルーシブセンター (アリス) 永井玲衣 伊藤林太郎 五十嵐力馬 2024.12.15 (日) アフタートーク

## ぼくたちの哲学教室

石橋智晴さんによるグラフィックレコード

2021年製作 / 102分 / G / アイルランド・イギリス・ベルギー・フランス合作



ぼくたちの哲学教室



© Soisú Films, Aisling Productions, Clin d'oeil films, Zadig Productions, MMXXI

北アイルランド、ベルファストの男子小学校で実施されている哲学の授業を2年間にわたって記録したドキュメンタリー。北アイルランド紛争によりプロテスタントとカトリックの対立が繰り返されてきたベルファストの街には、現在も「平和の壁」と呼ばれる分離壁が存在する。労働者階級の住宅街に闘争の傷跡が残るアードイン地区のホーリークロス男子小学校では「哲学」が主要科目となっており、「どんな意見にも価値がある」と話すケビン・マカリービー校長の教えのもと、子どもたちは異なる立場の意見に耳を傾けながら自らの思考を整理し、言葉にしていく。宗教的、政治的対立の記憶と分断が残るこの街で、哲学的思考と対話による問題解決を探るケビン校長の挑戦を追う。



永井 玲衣さん

人びとと考えあう場である哲学対話をひらく。政治社会について語る「おぼろげダイアログ」、せんそうについて表現を通して対話する八木咲とのユニット「せんそうつて」などでも活動。著書に『水中の哲学者たち』（晶文社）『世界の適切な保存』（講談社）。第17回「わたくし、つまりNobody賞」受賞。詩と植物園と念入りな散歩が好き。



伊藤 林太郎さん

渋谷区教育委員会教育長。大学卒業後、文部科学省に10年以上勤務し、幼児教育、大学教育、若手研究者育成、外国人の日本語教育など教育行政に幅広く携わる。本年4月より現職に着任し、区立幼稚園、小学校、中学校に関する施策を中心として渋谷区の教育行政をつかさどる。



五十嵐 力馬さん

渋谷うまれ渋谷育ち渋谷区関連会社勤務の傍らで地域に根差し『子どもドまんなか』を合言葉に、子どもの居場所づくりや地域の文化を守る活動に勤しむ地域のオチサン。秘密結社あわえびすメンバー。RadioEBISU パーソナリティー。渋谷区立常磐松小学校 PTA 会長。児童厚生一級指導員。渋谷氷川町会役員（渋谷氷川睦会副会長）。渋谷消防団（第2分団）。

一まずは、映画の感想をお聞かせください。  
(聞き手：アーヤ藍)

永井 「哲学とは暴力に抗していく試み」だと思いました。相手に問うとともに、互いの言葉を聞き合う、手を伸ばし合う、暴力ではなく、言葉で共に繋がり合おうとしている映画だなと。

五十嵐 「聞くこと」って大切だなと。ぜひ対話を学校の授業に取り入れてもらえたら嬉しいです。

島田 自分の経験と重ね合わせながら見ていました。私も調停を行う中で、とにかく私は相手の話を聞くことに徹し、相手に自分で考え、答えを導いてもらっています。

伊藤 子どもたちの意見や協働を大切にしつつ、先生がうまく子どもたちを達成すべき目標に導いているなと感じました。

一映画の舞台である北アイルランド・ベルファストはヨーロッパの中でも青年の自殺率が高く、薬物や犯罪集団などの暴力が強く残っているエリア。日本の子どもたちも歴史的背景や形は違えど、様々な暴力や問題に直面しているのではないかと思います。いかがでしょうか？

伊藤 文科省が毎年小中高を対象に校内暴力やいじめ、不登校などの調査を行っていますが、校内での暴力行為の件数がここ数年で伸びていて、特に小学校での暴力行為が増えています。思いを言葉にできない子が増えたとか、対話で解決する力が弱まっていると言っている先生も多いです。

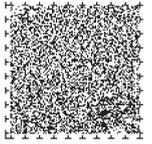
五十嵐 子どもたちって大人が思ってる以上に、学校や習い事などでとても忙しく、家でも、学校でも、すごく頑張っている。そんな中で自分の意見を自分で言う場や失敗してもいいと思える第三の居場所を大人が作ってあげなきゃと感じています。

永井 哲学対話の中で、ある子が「この世に正解がないことは分かった。だけど、間違いがあるじゃん」と言ったんです。その言葉って、子どもたちが生きている社会を映し出す言葉だなと思った。大人から「自分で自由に考えていいよ。」と言われたから、自由に発言してみたら「それは間違ってる」と言われてしまう。頭ごなしに非難、否定はしないが批判はする、一緒に考えて吟味していく、それが哲学対話。大人も対話を経験したことがない状況にとっても危機感を感じています。

一よい対話を行うためのポイントとは何でしょうか？

島田 絶対に否定しないこと。そして一番大事なことは判断しないこと。「私はあなたの話を聞きたい」と

いう態度を見せて、相手になりきるような努力をしています。実は戦争って一部のところでしか起きていなくて、同じ国の中でも道を2つ離れると日常生活をしている。彼らは非日常を見ながら日常を生きている。そういった非常に緊張感が強い中では、外部の人間になかなか心を開かない。いろいろ問いかけて、「あなたの話に関心があります」「理解していますよ」という態度を見せます。



一問いを持つ力は 어떻게 育めるのでしょうか？

伊藤 いかにも日常的な場で子ども同士の対話を作るか。例えば学級会では、よく意見を言う子の意見に流されがちですが、意外とみんな違うことを思っている。そこでまい先生は別の子に振ってみたり、先生も意見して子どもたちの議論に少し違った視点を入れてみたりする。子どもたち同士で対話を促しつつ、子どもが気づいてない視点や問いを持つきっかけを与える。これが経験のある大人が子どもの対話にいるメリットですよ。

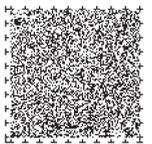
永井 問いを持つ力とは、スキルや知識ではなく、態度そのもの。まず一つは他者の捉え方だと思います。現代社会において、他者は基本的に競争相手であり、対話ではなく、論破することが目的となる。しかし、他者を協働相手として、「わからなさ」をたっぷりと含んでいるものに対し、「私一人じゃ抱えられないから、あなたが必要だ」というメッセージを送ること、それが哲学や対話だと私は考えています。私は哲学対話の場に必ず大人に入ってもらい、子どもに問いかけてもらっています。こうやって「問う」を共に育んでいける思っています。

一競争相手ではなく、協働相手。五十嵐さんが児童館で行ってきた活動に通ずるところがあるかと思えます。

五十嵐 今の子どもたちは史上最も運動しなくなった世代といわれています。例えば最初はみんな走ることが好きなんですが、いつの間にか勝利至上主義になってしまい運動離れが進んでしまう。そこで児童館で運動遊びを取り入れました。ルールだけ伝えて、あとは実際に一緒にやってみるんです。そこでは子どもに「どうだった？」と聞くことと誰も取り残さないことを大切にしていました。どんな子に対しても、「あのプレーよかったね」「誰よりも応援してたね」という形で声掛けをしました。

一問いを受け止めてもらえないことが暴力にまでつながってしまうこともある。そう考えると、対話や問いを持つことは自分を大切にすることでもあると感じました。

島田 子どもたちには自分に素直になっておかしいぞって思ったことには問いを持ってほしい。小学校入学時は「これはなんでだろう？どうするんだろう？」とハテナでいっぱい。しかし、卒業時には「これはこうだ。」とピリオドで終わる。6年間の



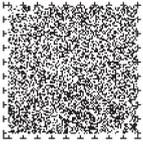
島田 久仁彦さん

株式会社KS International Strategies代表取締役社長CEO。元国連紛争調停官。数々の紛争調停を必ず合意に導くことから『最後の調停官』と呼ばれ、現在も様々な案件に携わる。元日本政府気候変動問題首席交渉官。米FBIでCrisis Negotiationインストラクター。へいわ創造機構ひろしま(HOPE)プリンシパル・ディレクター。上智大学特任教授。渋谷区立富谷小学校PTA会長。



ナビゲーター  
アーヤ藍さん

慶応義塾大学卒。在学中に訪れたシリアが帰国直後に内戦状態になったことをきっかけに、社会問題をテーマにした映画の配給宣伝を行うユニテッドピープル株式会社に入社。同社取締役副社長を務める。2018年より独立し、映画イベントの企画運営や記事執筆等に携わる。大丸有SDGs映画祭のアンバサダー。著書に『世界を配給する人々』（春眠舎）。



うちに「算数はこうだ」「社会はこうだ」と教えられて、疑問を持つことを禁じられてしまう。また、今の親御さんは忙しすぎて、子どもの問いに付き合ってもらえない。学校で子どもが悪いことをしても、子どもに「どうしたの?」ときくのではなく、学校や先生に「教育の仕方が悪い」といい、親が責任を取らなくなっている。でも、それだといつか破綻して、爆発してしまうんです。だから、子どもの「なぜ」にはとことん付き合ってもらいたい。

**永井** 私がつくづく思うのはどんな人だって絶対に考えているんだということ。どんな人でも絶対に問いをもっている。私は全国で対話の場を開いていて、最初に問いを出し合ってもらうんですが、問いがかぶることってほぼないんです。それだけ人々は取りかえの利かない問いを、世界の切り口を持っているんです。でも、私たちは「こんなこと言ったら馬鹿にされちゃうかも」って問いを押し込めている。だからこそ「聞く・聞かれる場」が必要なんです。

—最後にメッセージをお願いします。

**伊藤** 子どもたちが安心して対話や意見表明できる場を教育現場で作っていくことが大事だと思います。それを先生だけでなく、地域の方々や企業団体、子どもたちも含めて作っていききたい。渋谷の学校に関わる方、ぜひ一緒に作ってあげたら嬉しいです。

**島田** 私がいつも心がけているのが「自分に対して問いかけをしよう」ということ。毎年12月には、「この1年間で私という存在が世界のどれだけの人の幸せに役にたったか」ということを自分への問いにしています。一度自分との対話を試してみると、今まで自分のことなのにわからなかったことをたくさん発見できるんじゃないかな。

**五十嵐** 僕の地元素晴らしい先輩がいて、先輩に相談すると、全部話を聞いてくれるんです。そうすると、

いつの間にか問題が整理されていて、「なんだ答えは決まってるじゃん」と気づく。全部聞き切ってくれれば安心して、次に進みやすくなる。子どももきっとそうで、そういった環境づくりを学校、地域、親含めてみんなで作っていききたい。あと、皆さん、ぜひお子さんのこと、たくさん褒めてあげてくださいね。

**永井** 哲学対話をする、社会で活躍できるとかって近代的な合意性に絡め取られることがある。しかし、そうではなく「一緒にいるために一緒にいる」ために対話をするんだと私は思います。子供も大人も傷ついている現代社会で、対話をもっと修復的な意味を持つべきで、そのための担い手をもっと多くないといけません。私は考えています。哲学対話に興味を持っていただいた方、一緒に頑張っていきましょう。

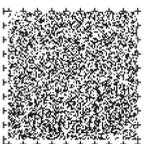
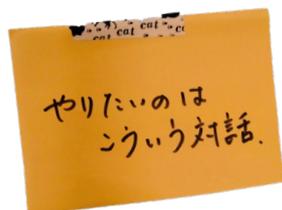
—みなさん、ありがとうございました。

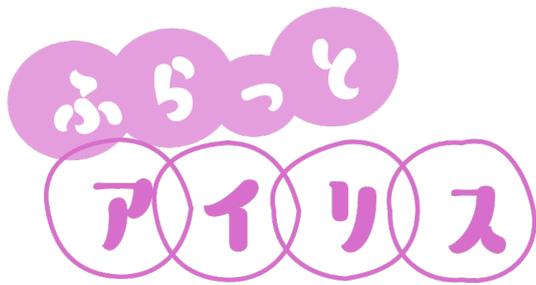
## フードドライブ ありがとうございました

今年度は新たな取組として映画祭開催中、渋谷区社会福祉協議会と協働しフードドライブを開催しました。3日間で255品の食品と、シャンプーやマスクなどの日用品が30品集まりました。ご寄付いただいたものは地域福祉コーディネーターを通して、生活や食事にお困りの世帯へお届けしました。ご協力、どうもありがとうございました!

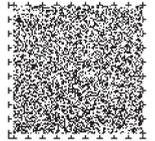


食品の受け取りにはボランティアさんに活躍していただきました!





アフタートーク記事を読んで、なんだか私も対話してみたくなった・・・そんなあなた！アイリスでは誰もがふらっと気楽に、誰とでもフラットに、ご参加いただけるイベントを開催しています。今年度から2つのイベントが新しく始まりました。ぜひ一人でも、友だちや家族とでも、ふらっと気軽に遊びに来てください。



## 哲学カフェ

素朴な問題や身近な事柄について問いを立て、対話をし、考えを深める場です。無理に答えを出そうとするのではなく、物事を考え、探求していくプロセスを楽しみます。昨年度に引き続き、今年度もSOGIEと人権の視点から様々なテーマについて語り合いました。

毎回、様々な年代や背景をお持ちの方にご参加いただいております。その時たまたま集まったメンバーだからその空気感を大切に、丁寧に対話を行っています。ぜひ対話の世界をのぞいてみませんか？

### 今年度のテーマ

ゆとり・働くこと・友だち・謝罪・愛・ジェンダー平等

## 読書会

月1回、ジェンダーをテーマにした本を2ヶ月かけて読み解き、日常にある「なぜ？」を参加者のみなさんと共に考えています。今年もフェミニズムや男性の生きづらさ、トランスジェンダーなど様々なテーマの本を皆さんと一緒に読み、学びを深めることができました。

### 今年度取り扱った書籍



**上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！**

上野千鶴子・田房永子  
大和書房



**50代で一足遅れてフェミニズムを知った私がひとりでも安心して暮らしていくために考えた身近な政治のこと**

和田静香  
左右社



**さよなら、俺たち**  
清田隆之(桃山商事)  
スタンド・ブックス



**家族、この不条理な脚本**  
キム・ジヘ  
大月書店



**トランスジェンダー入門**  
周司あきら・高井ゆと里  
集英社新書

## マンガカフェ # しぶにじ

LGBTQやジェンダーにまつわる人気マンガ読み放題の時間です。ただマンガを読みに来るだけでもOK！どなたでも来場可能なスペースとなっております。年代を問わず多くの方が自由にくつろげる場所となりました。

「自分の経験と重なることが沢山あった」、「性に対する価値観や考え方の幅を増やしてくれた」と感想が寄せられるなど、来場者の皆さんが思い思いのマンガを手にとっている姿が印象的でした。



## おしゃべり ハンドメイドたいむ

今年度からふらっとアイリスに仲間入りした「おしゃべりハンドメイドたいむ」。ハンドメイドに取り組みながら、おしゃべりをするというゆる～い会。読書会や哲学カフェで対話の場はあったけれど、難しいことは抜きに楽しくワイワイおしゃべりできる居場所があったらいいな～という編み物好きのスタッフの思いから誕生しました。

編み物や折り紙、羊毛フェルトなど思い思いの手作業に取り組みながら、渋谷のおすすめのスーパーマーケットの話をしたり、家族のあれこれを話したり・・・一期一会で初めましての人同士だからこそ、意外と打ち明けられることもあり、いつも大盛り上がり！ハンドメイド好きも、そうでない方もぜひおしゃべりしに来てくださいね。

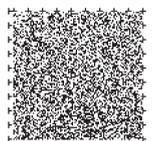


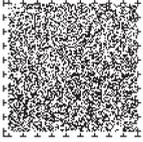
かぎ針編みで  
ネックウォーマー！



初めての羊毛  
フェルト。  
チクチク

開催情報は左のQRコードからHPをチェック！





# アイリス講座

アイリスではジェンダーやセクシュアリティなど人権に携わる諸問題についての啓発事業の一環として、様々なテーマの講座を開催しています。

## はたらくあなたの自分バランス

7月13日（土）14時～16時



認定NPO法人サービスグラント  
ママポノ担当  
津田 詩織さん



津田塾大学学芸部准教授  
北村 文さん



仕事や生活が複雑に絡み合い、社会から様々な役割を求められるなかで、これからの働き方について不安をもっている方はたくさんいます。このような状況において、不安の原因を知ること、自宅や職場から一步離れて息抜きできる場所を見つけること、人や地域とつながることは、心身のリフレッシュの機会となり、働くモチベーション、キャリアアップ、職場復帰のしやすさにつながります。

そこで、社会学、ジェンダー学などを研究する津田塾大学学芸学部准教授の北村文さんとスキルや経験を活かすボランティア「プロボノ」を運営する認定NPO法人サービスグラントの津田詩織さんをお招きし、働く女性の就労継続をコンセプトとして、自分のペースで、自分らしく働く未来について、アカデミズムや市民活動の観点から参加者と一緒に考えました。

どんなライフステージでも、どんなキャリアを歩んでいても、みんな同じ不安、悩みを抱えているのを知ることができました。ただただ今だけを考える時間を増やせたらいいと思うようになりました。

## のんあるスナックアイリス

～家でも、学校でも、職場でもないもう1つの居場所作りのあれこれ～

8月10日（土）10時～12時



（一社）子どもの声からはじめよう事務局長  
内山 茜さん



（一社）青草の原 代表理事  
藤田 琴子さん

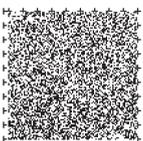
家族や学校、職場など、所属する場所はあるのに、「なんだか生きづらい」「居場所がない」・・・そう感じる人も少なくないのでは。

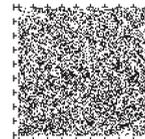
そこで、8月のアイリス講座では「れもんハウス」を立ち上げた藤田琴子さんと拡張家族や子どもアドボカシー活動に携わる内山茜さんをスナックのママとしてお招きし、「スナックアイリス」を開店！現場の目線から居場所の重要性や人と人のつながりの多様なあり方・可能性、居場所作りについてお話しいただきました。

お二人のお話を聞いた後は、2つのグループに分かれて直接ママに質問したり、参加者が取り組んでいることについて発表したりと、ママと参加者、参加者同士の距離感が近いあたたかい雰囲気のアイリス講座になりました。

参加者の皆さんが内に秘めていた気持ちを率直にお話しされていた印象で、本当にスナックでママに話を聞いてもらっているかのような、アットホームな雰囲気がとても良かったです！

「自分らしさを取り戻す場所、機会を作る」という優しさが、居場所作りの根っこにある、と思いました。





## 映画『バービー』 上映会 10月5日（土）14時30分～16時30分



© 2023 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved.

10月11日の国際ガールズデーに先駆け開催した、世界でもっとも有名な着せ替え人形「バービー」を主人公とする映画『バービー』。上映会は早々に申込が埋まり、10代～70代と幅広い世代、性別関わらず様々な方にご参加いただきました。

多様性を表現する様々な職業・見た目のバービーたちとケンたちが、ピンク色に染められたバービーランドとリアルな人間社会を行き来する中で、若さや美、自己実現や社会的評価について問い考え、行動する姿を見て、刺激を受ける機会になりました。



かわいい・キラキラした内容かと思いましたが、女性の自立や男女平等のメッセージが伝わる内容でした。



社会問題がテーマでしたが、お堅いストーリーではなく、ピンクがテーマカラーのかわいい映画でした。

## 子どものころ会いたかった大人になる

～コミュニティの中に子どもたちの“大丈夫”をつくっていく～  
3月1日（土）14時～16時



フリージャーナリスト  
秋山 千佳さん



ユースセンター100日荘店主  
末岡 真理子さん

社会が急速に変化していく中で、家庭をめぐる問題も多様化、複雑化し、様々な問題に直面している子どもも少なくありません。

そんな中、家庭だけでなく地域で子どもたちの育ちをサポートしようという動きも加速しています。そこで春休み直前に開催したアイリス講座では、ジャーナリストの秋山千佳さんとユースセンター100日荘店主の末岡真理子さんをお迎えし、子どもたちを支える地域の活動について考えました。



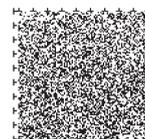
左から末岡 真理子さん、松本 摂子さん(渋谷区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター兼生活支援コーディネーター)、松本 康宏さん(同)、秋山 千佳さん

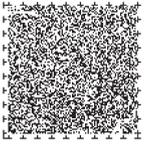


「大人もダサい背中を見せていい」という秋山さんの言葉印象的でした。



まずは自分の手の届くところにいる人から話を聞いていこうと思います。





# 対話のまちづくり コーディネーター講座



対話のまちづくりコーディネーター講座は、「対話」で地域の課題や問題の解決に取り組む実践者を養成するプログラム。講座の中では、オープンダイアログのエッセンスと共に、トラウマインフォームドアプローチについても学び、困りごとや心の傷を抱えた人が安心して話せる、安全で水平な対話の場をコーディネートする力を身に着けます。各コース1日6時間全6日間と、時間をたっぷりかけて、実際に参加者同士で対話を行いながら学びます。今年度で3年目となる本講座。2期・3期生とそれぞれ全く違うカラーを持った仲間たちの対話の講座の様子をお届けします！

## # 講師



森川 すいめいさん

精神科医。鍼灸師。オープンダイアログトレーナー。2003年にホームレス状態にあるひとを支援する団体「TENOHASHI (てのはし)」を立ち上げ、活動の過程でかれらを支援するゆうりんクリニックを仲間と開設し、現在は同所で往診や外来治療を行う。



小澤 いぶきさん

児童精神科医 / 精神科専門医 / 一般社団法人Everybeing共同代表 / 京都大学医学研究科社会疫学研究員 / こども家庭庁アドバイザー。精神科医を経て、児童精神科医として複数の病院で勤務。

## # オープンダイアログ

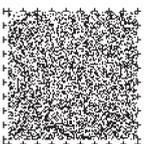
オープンダイアログとは、1984年にフィンランドのケロプダス病院で生まれた対話を軸とした精神医療のスタイルです。オープンダイアログは「開かれた対話」と訳されるように、困りごとがある本人と、周りでその人をサポートしたりケアしたりする人を交えて、必ず本人のいるところで対話をします。

「聴ききる、話しきる」ことを大切にするこの対話の考え方を、フィンランドでは精神医療の分野だけでなく、学校や職場、家庭や議会でも活用しており、あらゆるところで対話の場が開かれています。

## # トラウマインフォームドアプローチ

トラウマインフォームドアプローチとは、医療の専門家ではなくても、様々な立場にある人がトラウマとは何か、どのような影響があるのかということを知ることにより、社会全体の健康と安全の向上を図る公衆衛生のアプローチを指します。

疫学療法では、生涯においてトラウマ体験を有する人は少なくないことが分かっています。“今まさに起きているトラウマ”の影響を理解し、影響に気づき、適切に対応することで、再トラウマを防ぐことができます。これは、自然災害などの緊急時だけでなく、DVや虐待、家庭内の問題、いじめ、性暴力被害など助けを求めることが難しい環境を、自分も関わる構造的な問題として捉えなおし、安全な環境に変容させていく土台にもなります。また、自分や他者の様々なSOSに気づき、適切に対応し、人が本来のレジリエンスを発揮していくときに必要なエッセンスでもあります。



## # ベーシックコース

ベーシックコースではオープンダイアログの基本を対話やワークを通して、学んでいきます。

まずは自己紹介から。「本場フィンランドのオープンダイアログは自己紹介で半日つかうんです。」とすいめいさん。その言葉の通り、20人を超える受講生の皆さんの自己紹介であつという間に半日が過ぎました。そのおかげで、皆さんがどのような思いでこの講座に参加されたのか、どんなことをこれから学んでいきたいのかをお互いに丁寧に知ることが出来ました。



講座の中では様々なロールプレイングを行います。過去に精神疾患の患者たちがどう扱われてきたのか、問題を抱えた家族のカウンセリングのあり方とは、そしてその中でどうやってオープンダイアログが誕生・発展してきたのかを患者、医者、カウンセラー、家族などの役を演じながら、没入感たっぷりに学んでいきます。



紐をつかったワークでは、グループで紐をひっぱり合いながらどのように自分の言動が相手に影響を及ぼすのか、また相手の言動が自分に影響を及ぼすのか、権力格差や安心・安全な関係とはどういうことなのかを体を使って体験しました。



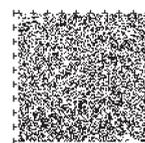
## # アドバンスコース

対話の基礎は学んだけれども、どのように地域で実践していけばよいのかわからない、もっと対話の練習をしたい！という受講生の皆さんからの声を受け、開設したのがアドバンスコース。ベーシックコース修了生を対象に、より実践的な対話のトレーニングを行う講座です。



まずは約半年ぶりに再会した懐かしい仲間たちと近況報告。日常生活で対話の実践を試みている人、生活に大きな変化があった人、新しいことに挑戦している人・・・講座終了後の半年間なにをしてきたのかを共有するための対話の時間を持ち、少しずつ対話の世界に潜っていきます。

3回目にはルワンダのジェノサイドを研究されている片山夏紀さんがスペシャルゲストとして登場。現地調査からわかったジェノサイドの被害者・加害者の複雑な関係性、市民によるガチャチャ裁判と「和解」のあり方などについてお話しいただきました。





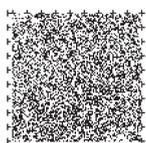
# 東京レインボープライド2024

代々木公園で開催されるセクシュアル・マイノリティの存在を社会に広め、「性」と「生」の多様性を祝福する人権フェスティバル「東京レインボープライド（TRP）」今年も渋谷区はブース出展しました！日本のプライドパレード30周年と「変わるまで、あきらめない。」をテーマとして、イベントの延べ動員数は約270,000人で過去最高となりました。また、様々な企業や団体がメッセージを発信し、ステージではドラッグクイーンなどのパフォーマーが会場を熱く盛り上げ、会場はLGBTQ当事者やアライたちのハッピーなムードでいっぱいでした。



2000人以上の方が渋谷区ブースを訪れてくれました！

渋谷区ブースでは区内4大学（青山学院大学ジェンダー研究センター、実践女子大学、聖心女子大学グローバル共生研究所、津田塾大学）と協働して、計22名の学生さんと一緒にブースを運営しました。性的マイノリティの学生も安心して学生生活を送れるセーフスペース実現のため、ブース内にメッセージボードを設置しました。集まった貴重な声を区内の学校に届けることで、安心して過ごせるセーフスペースづくりを促進させるきっかけとなりました。さらには、TRPだけの場で完結させるのではなく、渋谷モディなどをはじめとした様々なイベントの場でみなさんから集まった声を届けました。



# にじいろ読書カフェ

東京レインボープライドの場だけで楽しむなんてもったいない！ということで、今年も大学を超えた読書カフェを開催！『星月夜』『息子のボーイフレンド』などジェンダーやセクシュアリティに関する本を選出。読書サロン主宰のティヌさんをファシリテーターに迎え、大学生だからこそその感覚や目線で書籍について参加者同士が熱く語り合っていた姿が印象的でした。



## 取り扱った書籍

- 『生を祝う』李琴峰 / 朝日新聞出版
- 『君は永遠にそいつらより若い』津村記久子 / 筑摩書房
- 『星月夜』李琴峰 / 集英社
- 『息子のボーイフレンド』秋吉理香子 / U-NEXT

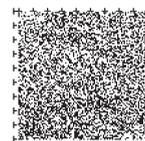
広報アイリス  
アンケートに  
ご協力ください！  
締切2025年9月末

広報アイリス80号読者アンケート



## 編集後記

広報アイリス担当2年目のRです。今年はもっとアイリスの楽しい雰囲気が伝わるような広報誌にしたい！という思いで編集に携わってきましたが、いかがでしたでしょうか。今年度は条例改正に伴い、センターの名称が変わったり、新しい事業に取り組んだり、変化の年でした。あっという間に一年が過ぎてしまいましたが、こうやって振り返ってみると、来館者、イベント参加者、講師の皆さんなど様々な人に携わっていただいていたな、と感謝の気持ちでいっぱいです。これからもアイリスをよろしくをお願いします！



# 〈アイリス〉でできること

渋谷インクルーシブシティセンター（通称名：アイリス）は、ジェンダーやセクシュアリティなど、人権を尊重し差別をなくす社会を推進するための学習・活動・交流および情報提供の拠点となる施設です。



## 会議室

学習や会議などに利用できます。  
利用には「渋谷区施設予約システム」での利用者登録と予約が必要です。  
詳しくは右のQRコードから。



## 情報ライブラリー

ジェンダーやLGBTQ、人権に関する書籍、行政資料を中心に揃えています。区内在住・在勤・在学の方と登録団体の方には貸し出しもおこなっています。



## 交流のひろば

学習や交流に使用できるスペースです。  
予約なしでどなたでもご利用可能です。  
Wi-Fiもご利用いただけます。



## アイリス相談

法律相談（弁護士）、悩みごと何でも相談（心理カウンセラー）、LGBTQにじいろ電話相談（専門相談員）の3つの相談窓口を無料でご利用いただけます。詳しくは右のQRコードから。



## 渋谷インクルーシブシティセンター 〈アイリス〉

渋谷区桜丘町23-21（渋谷区文化総合センター大和田8階）

☎3464-3395/ FAX: 3464-3398

開館時間 9:00～21:00（日曜は17:00まで）

休館日 月曜日、第3日曜日、祝日の翌日、  
年末年始（12/29～翌年1/3）

アイリスHP



X



Facebook

